

19. 地域人口変動の転換局面について……………濱 英彦 (人口問題研究所)
 20. 大都市地域における高年人口の移動……………大友 篤 (宇都宮大学)
 21. 人口移動・分布論——日本を中心として—— ……黒田 俊夫 (日本大学)
 ◇フォーラム「人口現象の解析方法——多変量解析を中心として——」

企 画：山本 幹夫 (帝京大学)
 ラポルトゥール：沖野 哲郎 (帝京大学)

基調報告

人口現象の生態学的研究——出生・死亡を中心とした多変量解析—— ……山本 幹夫 (帝京大学)

研究報告

- 〈座長〉山本 幹夫 (帝京大学)
 1. 指標の正規化と荷重に関する検討……………植松 稔 (北里大学)
 2. 出生に関する多変量解析……………阿藤 誠 (人口問題研究所)
 3. 人口移動と社会的要因に関する若干の考察……………谷 勝英 (東北福祉大学)
 4. 解析の方法論から見た問題点……………林 知己夫 (統計数理研究所)
 予定討論……………岡崎 陽一 (人口問題研究所)

ハンガリー政府・国連共催「人口推計研修コース」

1980年3月17日から28日にかけて、ハンガリーの首都ブダペストにおいて、標記の研修コースが、ハンガリー政府と国連主催で開かれた。出席者はハンガリー中央統計局の D. A. Benko-Lukacs, George Vukovich, Andras Klinger 博士等の幹部、国連本部人口部の Leon Tabah, M. A. El-Badry 井上俊一氏等、統計局の Y. C. Yu 氏。エスカップ、欧州経済委員会、WHO の事務局長、ユーゴスラビア経済研究所の Milos Macura 博士、米国センサス局の Sam Baum 氏、ペンシルバニア大学の Sam Preston と John D. Durand 教授、フランスの国立人口研究所からの専門家、およびエジプト統計研究所の専門家達であり、そしてその外に受講者側として、東欧、南欧、北アフリカ、ECWA 地域、南アジア、東南アジア、サハラ州南のアフリカ、太平洋、そしてラテン・アメリカの地域からの人口推計担当者を含め、総数56名に上る推計専門家、実務担当者が参加した。日本からは厚生省人口問題研究所の河野稠果が出席し、講師陣の一人として男女年齢別人口の評価と補正論を担当した。またこのほかに CICRED 会長で世界的に有名な Jean Bourgeois-Pichat 博士は、死亡に関するペーパーを書きながら出席できず、また世界銀行の K. C. Zachariah 氏も同様にペーパーを提出しながら出席しなかった。

研修コースは、講義と実習に分かれ、人口推計の意義と目的とくに開発計画に対する応用、人口推計の現在のノウハウの概観、男女年齢別人口の評価と補正、出生率の評価と補正、死亡率の評価と補正、出生率将来予測に関する方法、死亡率将来予測に関する方法、出生率予測に社会経済的要因を取り入れる方法、国内移動とサブ・ナショナル推計、労働力推計、先進国における人口推計の概観、そして国連の人口推計に関するコンピュータ・プログラムの解説と応用の項目について行なわれた。研修コースの順序として、まず講義が行なわれ、ついで七つの地域グループに分かれ、講義に対する質疑応答、それぞれの国(受講者が来た国)についての人口と動態統計の評価と補正、および国連コンピュータ・プログラムをハンガリー政府の電算機 (IBM) にかけて、実際に人口推計を計算してみる演習が行なわれた。

最後に、各地域グループの報告が提出され、各地域の人口推計の実情、方法の概観、将来どのように推計を改良すべきかの示唆が行なわれ、研修コース全体の要約がつけ加えられた。(河野稠果記)